

1年

入学したばかりの1年生にとって、毎日が初めての連続です。先日、給食で初めてパンが出たときには、ごみ袋がいっぱいにならないように、パンの袋をしばってから捨てるなどを指導しました。しばり方を伝えて見回っていると、上手にしばることができず苦戦している子供がいました。声をかけようとしたとき、隣の席の子供が「真似してね」と言いながら、丁寧に折り方やしばり方を教え、助けていました。



クラス全体に紹介すると、次の掃除の時間には机を倒してしまった友達に対して「大丈夫だよ」と言いながら散らばってしまった机の中のものを拾い、助けている子供たちがいました。

このように、聞いたことをすぐに実行することができるとても素直な子供たちです。これからも「明日も学校に行きたい!!」と思えるような温かな学級を目指し、担任一同全力で努めています。

4年

4年生になってから1か月が経ちました。朝のマイタイムになわ跳びや50m走の練習をしている子供たちがいます。練習を続けている理由を尋ねると、「運動会に向けて50m走のタイムを縮めたいから」や「1月にある富山市縄跳び大会で、前よりよい記録を出したいから」と答えました。そこで、「それが終わったらどうするの?」と聞くと子供たちはさらりと「次の大会もあるじゃない」と答えたのです。その答えを聞いて驚きました。



なんと、子供たちは何年にもわたって挑戦するつもりで取り組んでいたのです。子供たちが自分で目標を決め、本気で取り組むと大人の想像を軽々と越えていくことに驚くとともに、とても嬉しく感じました。その後も子供たちは仲間同士で話し合い、互いに協力しながら練習を続けています。これから子供たちの頑張りを応援し、挑戦した目標を達成できるよう一緒に取り組んでいきたいと思います。



6年

毎日「さすが6年生だな」と思う4月でした。特に素敵だと感じた出来事を2つ紹介します。

1つ目は「当たり前を当たり前に」です。6年生になってから、多くの子供たちが「他学年のお手本になりたい」と話しました。そこで、子供たちは学校のきまりを守ることで手本になれると考えました。去年までは無かった名札係をつくり、毎日声をかける子供や、廊下を走っている藤っ子を見たら「歩こうね」と教師よりも早く声をかける子供がいました。



2つ目は4月末に行ったクラブ勧誘の姿です。今年度のクラブ活動は、4、5、6年生が希望しないとやりたいクラブをつくることができないことを伝えると、6年生はポスターをつくったり実物をもってきて触らせてあげたり、また実際にダンスを踊ってアピールしたりするなど、4、5年生に興味をもってもらえるように工夫しながら勧誘をしていました。



子供が自分で考え、試行錯誤しながら活動している姿はまさに主体的でした。今後もこのような姿がたくさん見られるよう支援していきます。